



CONTENTS

第4回Home Coming Day	2
新役員決まる	4
退任教授「在任中の思い出」	6
教授就任あいさつ	8
病院長就任	9
海外からのメッセージ	11
同期会 30年会（4期）	12
20年会（14期）	14
10年会（24期）	16
支部会 関東支部会	17
滋賀支部発足	20
訃報	24
事務局から	24



塩田学長



堀池副学長



安藤教授

第4回Home Coming Dayを平成26年10月25日(土)に「湖医会」主催で開催しました。当日は、若鮎祭の期間中で他の講演会や催しものがあったなか、比較的多くの参加者がありました。

Home Coming Dayに先立って、大学の「開学40周年記念の集い」が開催され、塩田学長のあいさつのあと堀池副学長は赴任当初の思い出を、安藤 朗教授(医4期生)は学生時代のエピソードをそれぞれ話されました。

Home Coming dayは2部の構成で、第1部は、第13回湖医会賞の授賞式と受賞を記念して斯波真理子先生(医4期生)から「家族性高コレステロール血症とともに」の講演、続く第2部では、一般講演として大橋俊子先生(医4期生)から「保健所長の一日、一年、気がつけば9年」と題し講演いただきました。

第4回

Home

斯波真理子先生の講演

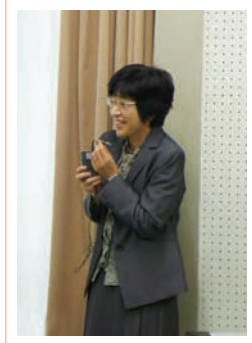


大橋俊子先生の講演





湖医会賞授与:渡辺会長から



推薦者の渡邊聡枝先生

Coming Day



新役員決まる

平成26年10月25日(土)に
開催の「湖医会」総会において
次の役員が選出されました。
任期は、平成26年11月1日～
平成29年10月31日の
3年間です。

会 長 ● 渡 辺 一 良 (医2期)

副会長 ● 蔦 本 尚 慶 (医2期)

中 島 滋 美 (医2期)

永 田 啓 (医2期)

相 見 良 成 (医5期)

金 子 均 (医7期)

茶 野 徳 宏 (医10期)

白 石 知 子 (看1期)

山 下 敬 (看5期)

監査役 ● 来 見 良 誠 (医1期)

向 所 賢 一 (医14期)

幹 事

(医 1期) 笹原 正清／佐藤 功／高橋 正行／藤宮 峯子
(医 2期) 加藤正二郎／野村 哲哉
(医 3期) 阿部 元／埤田 和史／高橋 雅士／若林 賢彦
(医 4期) 石澤 命仁／古家 大祐／高田 政彦
(医 5期) 市川 正春／小川 勉／駒井 理／庭川 光行
(医 6期) 九嶋 亮治／黒川 清／竹下 和良／藤田 泰之／山出 一郎
(医 7期) 西村 明儒／山本 育男
(医 8期) 乾 武広／内田 康和／牧浦弥惠子
(医 9期) 野口 俊文
(医10期) 糸島 崇博／松下 亮二
(医11期) 石川 弘伸／福留 寿生
(医12期) 一色 啓二／高瀬 年人／千野 佳秀／浜中 恭代／濱辺 方子
(医13期) 尾関 祐二／林 寛子／前田 清澄
(医14期) 池原 譲／門脇 崇／佐々木靖之
(医15期) 小森 英寛／真田 充
(医16期) 河端 秀明／黄瀬 一慶／吉川 浩平
(医17期) 坂口 知子／四方 寛子
(医18期) 津川 拓也／山根 哲信
(医19期) 北村 将司／竹村しづき／松井 克之
(医20期) 園田 文乃／竹林 紀子／早藤 清行／三村 朋大
(医21期) 伊藤 岳／桐ヶ谷大淳／望月 昭彦
(医22期) 齋藤 実／山川 勇
(医23期) 小出 正洋／嶋 綾子
(医24期) 栗本 直樹／佐野 剛視／寺村 真範
(医25期) 安田 真子／龍神 慶
(医26期) 文 一恵
(医27期) 青木 信也／井上 明星／瀬戸瑠里子
(医28期) 宮田 悠／森田 幸弘／八木 典章
(医29期) 小野 麻友／田中 克典／松井 潤
(医30期) 浅利 建吾／眞田 陸／花田 哲郎
(医31期) 大熊 優子／笠原 真吾／角埜紗智子／森田 康大
(医32期) 近藤 享史／阪下 暁／三宅優一郎／村田 雅樹
(医33期) 下前真衣子／田中 智基／西岡 咲輝
(医34期) 秋山 亮／池川 貴子／織邊 圭太
(看 1期) 上野さおり／本多 綾子
(看 2期) 上間 美穂／西田 佳菜／和田 明紀／山中由香里
(看 3期) 亀田 諭可／児嶋すなを
(看 4期) 井上 直子／濱田 梢／三宅 景子／望月 鑑恵
(看 5期) 谷 智子／福家 妙子
(看 6期) 赤澤 仁美／川越のぞみ／矢野美恵子
(看 7期) 小林 愛／酒井 浩子
(看 8期) 野上 朋子
(看 9期) 宇佐美亮子／平岡 悠里
(看10期) 田村沙緒理
(看11期) 北川 涼子／中込 昌幸
(看12期) 赤澤 有紀／藤居 弥生
(看13期) 大西 愛美／狭川恵理翔／嶋田 安希
(看14期) 平岡 祥子／藤岡 礼
(看15期) 磯谷 依子／今宮 未来／篠原 佐和／角川 愛理
(看16期) 市川 瑞希／内山 真奈／小幡 允里／佐藤 貴代
(看17期) (未定)
(期 外) 今村 武史(医7期)／田中 裕之(医16期)
西尾ゆかり(看2期)／山地 亜希(看6期)

「湖医会」会長 就任にあたり



会長 渡辺 一良 (医2期生)

昨年10月若鮎際の最中、「湖医会」では湖医会賞の授与式・記念講演会に続いて、「湖医会」の総会を開催しました。今年は役員改選の年で選挙が行われた結果、再び会長に選出されましたので、最近の「湖医会」の動きから3点ほど報告します。

●筆頭に掲げたいのは、「湖医会」滋賀支部が創設されたことです。全卒業生の約1/3にあたる1400名強は滋賀県内で働いており、続々と重要ポストに就くようになってきました。この流れは今後ますます強まるでしょう。そこで滋賀支部を設立して、県内にいる同窓生の縦横の連携を密にしようではないかという機運が盛り上がりました。

支部が立ち上がったことによるメリットはたくさんありますが、「湖医会」の意思決定の支えになりうると期待しています。これまで「湖医会」から会員の皆さんに意見を求

めたり尋ねたりしても反応が乏しく、ひどいときにはなしのつぶて、という状況でした。忙しい盛りでしたからね。これでは「湖医会」としての意思決定を下せません。でもこれからは会員全体に加えて、滋賀支部を相談相手として運営していけるようになるのではないかと期待しております。

●大学の執行部体制が一新。昨春には学長選が行われて塩田学長のもと執行部体制が一新されました。また開学40周年を区切りに新たなプロジェクトも計画されているようですので、大学との連携を密にしてお互いのためになるよう協力していきたいと考えています。

●看護学科同窓会の扱いに独自色を出していきます。

これまでは、医学科と看護学科の同窓会をできるだけ同じように扱う方針で運営してきました。しかし在学中はともかく、卒後は両科のキャリア形成は同様にはいかない上にその考え方も異なります。そこで方針を少し変更して、看護学科の独自色を出すことにしました。例えば看護学科独自の情報誌として「湖都通信看護学科版」を発行し、会費を卒業時払いの終身会費制に変更するなどです。この方針変更は、滋賀医大の医学科あるいは看護学科で共に学び、卒業した仲間である、という緩い連帯は保ちつつ、看護学科同窓会がその独自性も発揮できるようにすることを目指したものです。

優秀な経営者は後進を育てることに熱心であると言われる。今後数年しますと卒業生の中に時間的にも精神的にもややゆったりして、少しは同窓会や後輩にも目を向ける余裕ができたという方も出てくることでしょう。そういう方々のお力添えも得て、少しずつ大人の同窓会に変身していければと念じているところです。

これまで以上に会員の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

退任

「在任中の



化学は鬼(のよう)だったか？

生命科学講座化学 教授

木村 隆英

1983年から32年間近く、滋賀医大でお世話になりました。まだ基礎学課程が2年間あった時代からですから、82年入学の8期生の皆さんにもお会いしたのだらうと思います。助手のうちは化学実習のみの担当でしたが、これまでに実習で3人の留年生を出してしまったと覚えています。助教授になって基礎有機化学も担当するようになり、さらに教授になってからは分子化学序論も。また一時期は基礎物理化学も担当し、すっかり「鬼」という評価をもらってしまったように思います。

「すぐに役立つ知識は、すぐに役に立たなくなる知識」という思いがあり、医師にハウツーは必要だとしても、未来を切り拓く医師には、ハウツーの基となるもっとベーシックなところでサイエンスとしての化学を学んでおいて

ほしいと思ったのでした。しかし、見えない先への備えを伝えるのはとても難しく感じたものでした。私の固い思いと未熟故で学生さんには苦勞をさせましたが、それでも、かけた苦勞でこれからの分子医学に切り込んでいけるだけの血肉はできていると信じているのですがどうでしょう？

このところ附属病院のあちこちの診療科で卒業生の先生方に診ていただくようになりました。皆さん、頼もしく感じられる診察ぶりで、決して鬼のような化学教育の賜であるとは申しませんが、とても安心して受診させていただきます。ありがとうございます。

滋賀医大も、これから医学の国際基準に向って変革していかなければなりません。本学のような単科大学が医師一色に染まってしまうことほど

怖いことはありません。異分子による教育の存在が必要なのです。湖医会の皆さんにお願いします。教養教育なんて要らないなんて、決して煽らないでください。でも、いつか母校である滋賀医大のために「何か、SUMSing」を、と思い続けてもらえればありがたいです。湖医会の皆さんのますますのご活躍を期待しています。



教授

思い・出



おれもおまえも先祖は同じ

解剖学講座(神経形態学)教授

工藤 基



私の専門は聴覚脳の進化です。神経科学の分類からすれば、感覚系、聴覚ということになるでしょう。ヒトの場合、聴覚は言語に関わってきますが、多くの動物ではコミュニケーション手段にすぎません。それが進化の過程でどのように変遷してきたのか。聴器と脳の比較解剖学でそれをひも解くのが私のライフワークです。

私の研究生生活のスタートは1975年卒業後の岡山大学(新見嘉兵衛教授)です。基礎医学を選んだのは自分なりの何かを求めているゆえだと思えます。そのころ研究成果を英語で国際誌に発表することが求められはじめていました。新見先生からは英語論文の書き方を丁寧に教えていただきました。新見先生は比較解剖の先達であり特に視床の細胞構築にかけては世界に類をみない精緻さでネズミ、ネコ、

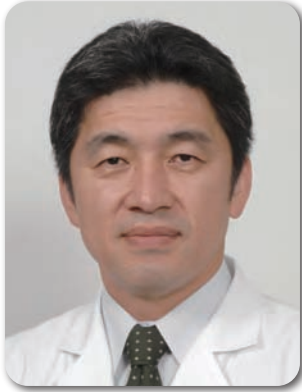
サルを用いて研究されました。

米国フロリダ州立大学と豪州モナッシュ大学に留学の機会が与えられました。いずれの大学でも聴覚中枢の研究をさせてもらえ幸運でした。日本では珍しい有袋類を使えたのは貴重な体験でした。フロリダ(Bruce Masterton教授)での体験は忘れ得ません。聴覚中枢を破壊して行動実験をする研究が主体で、私の役割は神経解剖でした。オボッサム(Didelphis virginiana)という原始的ほ乳類を使って、聴覚脳の神経回路を研究しました。研究室の動物舎には、ハリネズミ、アルマジロ、イグアナ等多くの種が飼われていました。Masterton先生は進化論の強烈な信奉者で、それらの動物を見せながら「おれもおまえも先祖は同じだ」とおっしゃいました。人種や民族間の争いが科学的にみればナンセンスなものだと言いた

かったのでしょう。フロリダは南部に特有な保守的な考えを持った人たちが多く、進化論でさえ問題視されるような土地柄です。その中で人々が差別や偏見を乗り越えて仲良く暮らすべき生物学的基盤を示されました。今の世相にも通じるような気がします。

関西圏の病院関係者から「滋賀医卒の先生はよく勉強しますね」と言われることがしばしばあります。「よく勉強する」というよりは「よく学び、よく遊ぶ」じゃないかと思います。学生さん達は多様な経歴をもった方が多く、教える立場からみても個性豊かな感じがします。当地は地の利にめぐまれ、自然豊かでありながら都会の便利さもあわせもっている、住み良い環境です。同窓生の皆様にはご自分の置かれたところで花を咲かせていただきたいと願っております。

教授就任 あいさつ



岩手医科大学
心臓血管外科学講座 教授

猪飼 秋夫
(医8期生)

[経歴]

●1988年6月
京都大学医学部附属病院 心臓血管外科
●1990年4月
静岡県立こども病院 心臓血管外科
●1998年8月
京都大学医学部附属病院 心臓血管外科 医員
●2000年4月
京都大学医学部附属病院 心臓血管外科助手
●2001年6月
University California San Francisco,
Department of Surgery
Division of Cardiothoracic surgery, Research fellow
●2001年11月
Stanford University Department of Cardiothoracic
Surgery Division of Pediatric Cardiac Surgery,
Research fellow, Clinical instructor
●2004年12月
静岡県立こども病院 心臓血管外科
●2007年1月
岩手医科大学附属循環器医療センター 心臓血管外科 講師
●2008年4月
岩手医科大学附属循環器医療センター 心臓血管外科 准教授
●2015年1月
岩手医科大学 心臓血管外科 教授

北の地からのご挨拶

岩手医大 教授に就任して

8期生の猪飼秋夫です。2015年1月1日付けで、岩手医科大学医学部 心臓血管外科学講座 先天性心疾患外科部門の教授を拝命いたしましたので、同窓の先生方にご挨拶申し上げます。

私と先天性心疾患とのつながりは、学生時代に始まります。第2外科故森渥視教授の理論的な病態説明の講義が、今でもなぜか脳裏に残っており、6年生のポリクリで、大津日赤で成人のファロー四徴症の心内修復術を1日中、術者の背中越しに見学したのが、先天性心疾患とのつきあいの始まりでした。新たな血行動態を作り上げるという手術に魅せられ、結果がすべてであるという外科治療の魅力と、こどもが好きという点だけで、後先を考えず小児心臓外科を目指すことにし、卒業後京都大学心臓血管外科に入局いたしました。研修医時代は、好んで先天性心疾患を担当しておりましたら、静岡県立こども病院への派遣を命ぜられました。

静岡県立こども病院在勤8年で、どんな難しい患者も諦めないという精神をたたき込まれ、もっと高い頂を見たいと日本人で初めてStanford大学小児心臓外科にclinical fellow

として留学し、外科治療の限界を研鑽して参りました。

研修医時代の指導医が岩手医大心臓血管外科教授に就任されるという縁があつて、岩手で先天性心疾患部門を任せて頂き8年になります。その間本邦初となる新生児大動脈弁形成や修正大血管転位に対する大動脈基部転換術などの手術を行い、成績の向上に努めて参りました。施設の集約化がすすみ、岩手県唯一の先天性心疾患外科治療を行う施設となり、現在は青森東部、秋田南部を含めた北東北全域を医療圏として精力的に医療を展開させて頂いております。

これまで自分の好きなことだけを極めるという恵まれた時間を過ごさせて頂いて参りましたが、今後も更に研鑽をし、震災の復興真っ只中の東北が更に活力を得られるよう、充実した医療を提供し、大学人として一人でも多くの学生や若い医師に、先天性心疾患外科治療の魅力を伝えていければと思っております。

まだまだ若輩者で学ぶべき事が多くございます。同窓の先生方の益々の御指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

病院長就任

病院長就任のご挨拶



友仁会友仁山崎病院 病院長

高橋 雅士

(医3期生)

湖医会の皆様、医学科3期生の高橋と申します。昨年8月に四半世紀ほど在籍した滋賀医大を辞し、彦根市の友仁山崎病院に院長として赴任しました。在学時代には、多くの方々に助けられながら、放射線診療、学生・研修医教育、研究に従事させていただき、充実した教官生活を送らせていただきました。この場をお借りしてあらためてお礼を述べさせていただきます。

当院は、開設当初より、内視鏡を中心とした消化器診療、会員制人間ドックを中心とした予防医学、を特色とし

て運営して参りました。また、平成17年度以降、ISO9001の認証による医療の質の維持にも取り組んで参りました。平成23年の当院内視鏡センターの総検査数は13262件(上部:10350件、下部:2868件、止血術:96件、EMR:765件、ESD:56件)と同規模の他院の内視鏡件数を大きく凌駕しております。また、近年、京都府立医科大学消化器外科の関連施設となり、消化器診療については内科、外科と院内で完結できる環境が出来上がりました。整形外科は金沢大学にお世話になっておりますが、内科、脳神経外科、予防医学はほぼ滋賀医大・同

医局出身の医師により診療が行われています。また、馬場忠雄先生(前滋賀医大学長)に事業統括管理者として在籍いただいております。

現在、日本の医療は、2014年6月

に成立した医療介護総合確保推進法の名のもと、大きな改革のうねりの真只中にあります。文字どおり、日本の医療は、“病院から地域・家庭へ”と大きな転換を迫られています。我々の病院も一般病棟の一部を地域包括ケア病棟へと変更し、在宅医療と急性期医療との橋渡しをこれまで以上に円滑に運用すべく体制を整えているところです。彦根市で内視鏡を学びたい医師の方々、病院から在宅までの包括的なケアに興味のある医師・看護師の皆様、是非下記までご連絡ください。

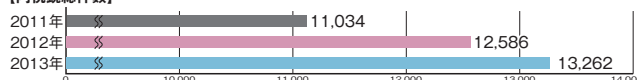
m.takahashi@yujin-yamazaki.co.jp

医療法人友仁会 友仁山崎病院 消化器内視鏡センター 内視鏡件数の推移(過去3年)

	〔上部消化管〕					〔下部消化管〕					〔胆胆管〕		
	総件数	総数	(内)止血術	(内)EMR	(内)ESD	総数	(内)止血術	(内)EMR	(内)ESD	総数	(内)ERBD	(内)EST	
2011年	11,034	8,627	98	13	44	2,361	16	658	14	46	21	7	
2012年	12,586	9,868	104	8	41	2,663	11	696	6	55	20	15	
2013年	13,262	10,350	77	17	43	2,868	19	748	13	44	16	22	

※各年1月～12月までのデータを集計(2011年のみ2月～12月集計)

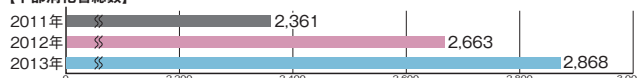
【内視鏡総件数】



【上部消化管総数】



【下部消化管総数】



病院長就任



守山市民病院 病院長
野々村和男
(医4期生)

平成26年4月1日付けで、守山市民病院の院長に就任しました4期生の野々村です。琵琶湖大橋の東端から広がる守山市(人口8万人)のほぼ中心に位置する199床の公立病院ですが、市民のための地域医療には欠くことができない拠点医療機関であり、その重責に身の引き締まる思いで日々過ごしております。20年前に当院に一人小児科医長として着任して以来、小児救急を含む地域医療とアレルギー分野の診療の充実に努力してきました。次第にご紹介いただける患者さんも増え、大学のご支援で小児科医も4人体制となりました。しかし病院全体としては医師や看護師の不足は深刻な状況で、院長としては熱意あるスタッフの確保が最重要課題となります。

自分の学生時代を振り返ってみますと、硬式テニス部に所属していましたが、当時の少ない部員でもレギュラーにはなれず、体育会の役員の方へ推されました。歴代会長の渡辺、河

学生時代に学んだことが

井両会長の甘い?お言葉に誘われて私も体育会長に就いたことが一番の思い出です。そして浜医戦などの運営や多くの会議を仲間とともに乗り切ってきたことが今も私の財産です。現在も県民のためのアレルギー疾患公開講座の企画運営や病院内外での多くの会議も苦になりません。職員とともに多くの課題に取り組んでいきます。学生時代に勉学の他にクラブ活動や大学祭、ボランティアなどに取り組むことは大変なことだと思いますが、仲間とともに事を成していく気持ちや努力は非常に尊く貴重で、将来の医療人として大切な基礎を築いてくれると信じます。同期生を見ますと、みんなそれぞれの分野で活躍しています。地域医療や全国区、そして世界へ発信している仲間がいます。学生や研修医のみなさんは可能性を秘めた一人一人です。どうか何事にも全力でぶつかって医療人としての可能性を開花させてください。そして将来当院のような地域医療を担う病院にも力を貸してくださることを切に願っております。その時まで私も可能な限り、「市民の皆さんに最適・最良の医療を提供できるように最善を尽くす」という病院理念のもとに、市民病院としての使命を果たすべく病院全職員とともに努力してまいります。

当院は常勤医も非常勤医も滋賀医大の先生方の大きな力で成り立っています。

今後とも滋賀医科大学の各講座の先生方、卒業生のみなさんのご支援を賜りますようお願い申し上げます。





国際協力から 得られる心の支援

ネパール国ルンブジ郡、HDCSチョウジャリ病院 ボランティア医師
東北大学病院産婦人科 非常勤医員 兼任

山本 嘉昭 (医2期生)

湖医会の皆様、ナマステ。

私は2008年頃から途上国の現状、深刻な医師不足を知り、現在はネパール中西部の田舎村にある現地の基督教 NGOが運営する病院で、年間半年くらい働いています。

ネパールは山国で、3000m以上の山々が何重にもあり交通が極端に不便です。ヒンズー教が主な宗教で2008年王政から民主主義に変わり、未だ暫定憲法しかなく政治が安定せず、現在アジアで最もGDPの低い国で、平均年齢30才の国民の70%を越える人が一日200円以下で暮らしています。結核、マラリア、腸チフス、栄養失調、肺炎などの熱帯感染症や外傷が沢山の若い命を奪い、周産期の母体死亡が多く、産婦人科医師に対するニーズも高いですが、貧困に根ざす問題が山積みです。

電気の確保、薬の確保、患者の運搬などの試練が多く、貧しさゆえにあきらめて、病人を家に連れて帰る事もあり、或いは財産の家畜や土地を売り払って助かったものの、その後の生活が成り立たずに家族が餓死してしまうケースまであります。我々のNGOは、宗教、年齢、性別などに関わらず特に貧しい人を対象にして医療を提供し、社会の発展を支えたいという理念で運営されていますが、未だに基督教に対する偏見も強いです。

日本同様、多くの医師は都会に集中し僻地では若い少数の医師が、奨学金の義務年限を過ごすために忙しい勤務をこなしています。この病院は手術ができるため3つの県にまたがるセンター的な存在です。私の主な目的は周産期の母体死亡を減らすこと、早産の予防、低体重児のケアを何とかしたい



と苦心しています。日本方式では無く、ネパールの実情で継続できる方法を模索しています。

国際協力は一方的な支援と思われがちですが、途上国の人々から価値観、辛抱、節約、家族を越えた隣人愛、経済発展がもたらす弊害、男女、宗教差別の問題、商業としての教育施設、ねたみや争いの環境などを学び考えることも多いです。私の生活も食物は粗末ですし、寒い部屋で凍えながら寝たり、夏は猛暑で体重を減らしたり、部屋にネズミやサソリまで来ます。しかし日本からお金を送るだけでは一部の人が握りしめ、なかなか貧しい人には届きません。実際に生活に必要なものを実感しないと寄付も生きません。

色々な工夫の後に早産児が、明け方には室温8℃くらいになる病室で、母親にだかれて保温され、持ってきた経鼻チューブからの母乳で育っている姿を見ると幸せを感じます。

日本や他国から医学生や研修医、看護師が見学に来ます。途上国を含めた多くの国の若者が交流し、相互理解を深めることは今後の国際協力だけでなく、戦争の根絶のためにもとても重要です。去年は滋賀医大からも数名が来られ自分の殻を割って新しい価値観を発見して帰って行ったようです。

日本へ帰るたびに、贅沢な最善の治療を提供出来る環境にととても感謝します。以前は日本で私も文句を言っていました。現在では感謝をしながら仕事を楽しめるようになり、自分が心の支援をされているように思います。



同期会

石澤整形外科医院

石澤 命仁

(医4期生)

卒後30年同期会参加報告

小雪の舞う1月31日、琵琶湖ホテルで、4期生の卒後30周年同期会が開催された。三々五々、会場に集まる、瞬時には誰か判らない「アラ還」の人々にじっと目を凝らすとかつてのクラスメートと判る不思議なこと。同期では初めて滋賀県内公立病院院長に就任した守山市民病院の野々村和男君の司会で、去年、消化器内科教授に就任した同期の誇りである安藤 朗君の開会挨拶に続いて、残念にもインフルエンザで欠席された教養課程Bクラス担任の金光義弘川崎医療福祉大学特任教授からの祝電披露があり、故人となった3名の同期生、Aクラス担任の井戸庄三名誉教授に黙祷を捧げた後、同期の最長老、有本恭三さんの乾杯の音頭で賑やかに開宴した。参加者は53名に上り、大盛会となった。アルコールが回り始めた頃から、恒例の、参加者全員の近況報告があり、皆、そ

れぞれに仕事では第一線の開業医、病院では部長・院長の要職、保健所長、教授、等々を務めながらも、余暇も大いに楽しんで活躍されていることがわかり、会場は何度も大きな拍手・喝采に包まれた。御子息・令嬢が滋賀医大に在学・卒業の同期生も数名あり、改めて短いようで長い年月の経過を感じた。最後に金沢医科大学内科教授の古家大祐君の爆笑の閉会挨拶でお開きとなったが、続く二次会も参加者多数で、夜更けまで名残を惜しんだ。





卒後30年同期会に参加して



西村医院

西村 桂子
(医4期生)

卒後30年同期会に、52名という多数の仲間が集まりました。恩師、金光先生から賜りました祝電のメッセージとともに会は始まりました。(誠に残念ながら先生は当日インフルエンザのため欠席されました。)卒後30年ぶりにお会いする方もおりましたが、そのブランクはなかったように話は弾み、すぐに会場は、学生時代のコンパさながらの活気に満ち溢れ、大いに盛り上がりました。病院長や教授職の苦勞話、医院運営の話、マラソン、ダイビング、楽器演奏などの多彩な趣味の話、仕事と子育ての両立や、もうすぐ孫ができる話など話題は尽きず、あっという間に時は過ぎていきました。

配布された学舎での集合写真に納まっていた仲間が、30年の時を経て、今こうして各地、各方面で活躍しているのだと思うと嬉しい思いがこみあげてきて、また明日からの元気をいただきました。会が終わると外はすっかり雪景色となっていました。本当に楽しい思い出に残る夜でした。

最後になりましたが、お世話くださいました幹事の皆様、湖医会事務局の皆様に厚くお礼申し上げます。

これからの10年が、健康で充実した日々になりますように祈りいたします。



同期会**卒後20年は、10年同期会とは違いました！**

大津市保健所健康推進課
子ども発達相談グループ
小児科医師

龍田(入江)直子
(医14期生)

大型台風19号の到来を翌日に控えた10月12日、14期生の卒後20年同期会が琵琶湖ホテルで開催されました。男性14名、女性8名と少しさびしい人数であったものの、互いに距離を近くして、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

近況報告では、檀上の40～50代の今と、スライドに映し出された若かりし日の姿(大学入試受験票と卒業アルバムの写真)を見比べながら、「昭和やな～」「バブルや……」「変わらへんね～」といった感想が飛び交いました。教育や研究に勤しんでいるひと、臨床でバリバリと頑張っているひと、趣味や家庭を大切にしながら仕事に励んでいるひと、新たな挑戦をはじめたひと、人生を模索中のひと、孫もいるひと……20年前は、医師になる目標を前に、同じ学び舎で学生生活を送っていた者たちが、それぞれの選択のもと、様々な分野にすすんでいます。限られた時間では語り尽くせないほど、多岐に渡る人生を歩んできたであろう同期生達の20年に思いをはせ、10年前の同期会の時とは異なる感慨にふけたのは、私だけでしょうか。

幹事さん、本当にありがとうございました。次回の同期会では、今回出会えなかった同期が一人でも多く参加できますように、期待しています。

**「卒後20年同期会」に参加して**

東京女子医科大学附属
膠原病リウマチ痛風センター

田中 栄一
(医14期生)

参加は20名程度ではありましたが、久しぶりの(それこそ卒業式以来の再会も!)再会もあり、懐かしい思い出話や近況報告に花が咲き、あっという間に時間が過ぎました。

卒後20年だと、皆、それぞれの職場でそれなりの地位なのですが、久しぶりの再会も、「皆、ほんと変わってないね～」という感じであり、一瞬にして学生時代のあの頃に戻ったようでした。みな元気そうで何よりでした。

一人一人の近況報告も興味深く、普段、自分が経験していることとは全く違った分野の話もたくさん聞け、今後の参考になることが多々ありました。特に学生や研修医への教育については、ジェネレーションギャップにみんな苦労しているなあと感じました(恐らく我々が学生や研修医の時も先輩方にそう思われていたでしょうが…)。また、家庭を抱えながらも職場の一線で頑張っている女性陣にも大いに刺激を受けました。

個人的には懐かしさのあまり(次の日が台風直撃で帰れるか心配にも関わらず)、3次会、4次会と朝方まで呑んで大いに語っていました。

人生80年と考えれば、もう折り返し地点ですし、次回が10年後では遅すぎるような…

もう少し早くにしませんか？
幹事さん、いつでも召集をかけてくださいね。



卒後20年同期会に参加して

栗東はた内科医院

畑 和憲

(医14期生)

卒後10年の同期会には参加しませんでしたので、20年ぶりに再会する同級生が過半数でした。参加前には少し変な緊張感がありましたが、参加して皆が集まれば、まるで大学時代にタイムスリップしたかのように、普通の会話が自然に再開された感覚であったのが不思議に感じられました。今時の40代がそうなのかもしれませんが、見た目や雰囲気は思ったほど変わっていない人が多い印象でした。職場ではそれなりの立場にあり、仕事中はもっと威厳のあるはずだと思いますが、自然体に戻れるのが同期会だと感じました。実はこれが滋賀医科大学の校風ではないかと思いましたし、よい環境で医師として育てて頂

いたと改めて実感しました。

皆と話して、卒後20年は研究者、常勤医、開業医、非常勤医など様々な立場となってはいますが、自分の方向性を見出し、それに向けて邁進する時期であると思いました。また、皆の近況を聞いて、驚いたり眩しく感じたり敬服する事も多く、ややもするとマンネリ化する日常を、自分も同級生として恥ずかしくないよう、次に再会するまで精一杯頑張ろうという気持ちになりました。

最後に、このような機会を作っていただき、ご協力いただきました湖医会の事務局の皆様へ深謝申し上げます。



同期会

24期生

卒後10年同期会に参加して

京都大学医学部附属病院
整形外科小豆澤勝幸
(医24期生)

2015年1月31日に卒後10年同期会が開催されました。出席者の中には卒業式以来の再会となった方も多く、とても懐かしく感じました。

入学当初の写真を眺めながらの近況報告も楽しんで聞かせていただきました。今回の報告では、外見上の変化でのサプライズはほぼ皆無でしたが、仕事や私生活における努力や苦勞が滲み出るような報告をたくさん聞くことができました。

一次会に続き二次会にも出席させていただきましたが、二次会でも話が尽きることはありませんでした。学生時代のような他愛も無いやり取りを続けているうちに、同期会はあっという間にお開きとなりました。今回の出席者は32名でしたが、10年後の次の同期会では今回出席できなかった皆様とも再会できることを楽しみにしております。

最後になりましたが、幹事の栗本さん、佐野君、寺村君、湖医会関係者の皆様に、この場を借りて感謝いたします。

馬場麻悠子
(医24期生)

平成27年1月31日に琵琶湖ホテルで開催された卒後10年同期会には、32名の同期が集いました。卒業以来の人もいましたが、皆印象は卒業時とほとんど変わっておらず、集まると学生時代に戻ったような感じでした。

近況報告では仕事からプライベートまで様々な質問が飛び交いました。臨床医としてバリバリ頑張っていたり、大学院で研究していたり、開業目前だったり、仕事と子育てを両立していたりと、皆それぞれ進んだ道でパワフルに頑張っているようすがわかり、とても嬉しく、励みになりました。また大学入学時の写真がスライドに映し出され、入学から16年の月日を改めて実感…大学時代を共に過ごした同期たちとの再会は本当に楽しく懐かしく心地よく、あっという間の時間でした。二次会の出席者も予想以上に多く、お開きまで終始話は尽きませんでした。

次回は10年後。今回出席出来た人も出来なかった人も、一人でも多く集まりたいです。皆健康に気をつけて、元気に再会しましょう!!

最後になりましたが、この同期会を企画、準備して下さった湖医会事務局の皆様、同期会を盛り上げてくれた幹事の栗本さん、佐野くん、寺村くん、本当に有難うございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



支部会

関東支部会



滋賀医科大学臨床検査医学講座
(附属病院病理診断科) 教授

九嶋 亮治 (医6期生)

平成26年8月23日(土)、いつもの品川プリンスホテルで25名の同窓生を集めて「湖医会」の関東支部会が開催されました。いつもと違うのは、去年までは関東支部会の一会員として築地から参加し月島へ帰宅していたのですが、今年は大津から出向くことになりました。

1期生の久保田亘さん、同窓会長の渡辺一良さんの挨拶で始まり、塩田浩平学長のお話がありました。ほとんどの関東支部会員にとって塩田学長は全くの初対面であり、「私が新学長として何をするか、大学では皆が戦々恐々としている」とのくだりは大いに受けました。

しばらく所属した関東支部会から母校に戻ったものとして、今回は私が講演することになりました。これまで支部会で拝聴したご講演はその道を究めた先生方の格調高いものが多かったのですが、私は「胃癌の病理と東京一人暮らし」という、(少々ふざけた)タイトルで国立がん研究センター中央病院に異動したきっかけから、母校に戻るまでの5年と2週間の思い出話を披露しました。以前、大学に勤めていた時にはできなかったマクロや臨床との密接なつながりに立脚した病理診断業務を展開できるようになり、それを母校に還元したいこと、優れた同僚に恵まれ胃癌に関するいくつかのまとまった仕事ができたと、また「銀座徒歩圏一人暮らし」という利点を生かして、私的にも充実した関東支部会

員時代を送ったことなどお話ししました。

将来、関東地区での勤務を希望する学生さんも参加していたのですが、塩田学長が「九嶋君のように東京などで他流試合をしてまた母校に戻ってきてください」とお話になり大変恐縮しましたが、私も若い後輩にはそうしてほしいと願っています。

最後に例によってトップオブ品川で、今となっては懐かしい東京の夜景を眺めながらの二次会となりました。関東地区にはもっと多くの同窓生が在住・在勤しているはずなので、さらに盛会になることを関ヶ原の向こうから祈念しております。関東支部会の皆様、5年間お世話になりありがとうございました



支部会



厚生労働省 保険局医療課

笠原 真吾 (医31期生)

ようやく春めいてきた今日この頃ですが、みなさまご健勝でお過ごしでしょうか。先の2014年8月23日に、例年通り品川プリンスホテルで開催された「湖医会」関東支部会に出席してま

いりましたので、その感想を報告させていただきます。

当日は塩田学長による滋賀医大の最近の動向に関するご説明を兼ねたご挨拶で開会し、その後、滋賀医大の先輩である九嶋教授より、東京での充実した臨床・学問・私生活についてのご講演をいただきました。お二方のお話から、自身の在学時と比べて大学が変わりつつあると感じ、若輩者ながら月日の流れの早さに思いを馳せました。

少し残念だったのが、若手の参加が少なかったことです。私自身、初期臨床研修のマッチング試験のため東京に来た大学6回生の時以来4年ぶりの参加でしたが、その際にお話した大先輩方が当時のことを覚えてくださってい

て、臨床ではない道を選んだ理由や現在の業務内容を説明させていただくなど、大いに楽しませていただきました。

(特に急性期病院における)若手医師の多忙ぶりは存じ上げておりますが、年に一度の機会なので、病院から抜け出すよい機会ととらえて、ぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。さまざまなキャリアを描いていらっしゃる先輩方とお話することで、いつもと異なる視点から自分を見つめなおす良いきっかけになることと思います。

差し当たって、来年度からは私と近い学年の方に声をかけさせていただきますので、ご都合が合えばぜひ一緒に参加しましょう。

●医学科6年 坂野 嘉紀

滋賀医科大学の関東支部会には2年連続の出席となりました。病理診断科の九嶋先生のご講演は、研究のお話と留学生活や趣味の話題と組み合わせ、さらに滋賀医科大学の病理診断科での夢も合わせて語っていただき、非常に面白いものでした。

その後の懇親会では、関東の地で、大学病院で勤務されている方、地域医療に従事されている方、官庁に勤められている方など幅広い分野で活躍されているOB・OGの方のお話を聞くことができ、大変ためになりました。学生に対して非常に気を使っていたいただき、楽しい時間を過ごすことができました。諸先輩方、どうもありがとうございました。関西にしか縁のない学生の方も視野を広げる意味でも、来年ぜひ参加されてはいかがでしょうか。

●医学科3年 高崎 水仙

この度、「湖医会」の関東支部会に初めて参加させて頂きました。

講演会では、塩田浩平大学長及び臨床検査医学講座病理診断科の九嶋亮治教授から貴重なお話を拝聴することができました。塩田学長からは滋賀医科大学や滋賀県医療の在り方についてのお話を、また九嶋教授からは先生が目指される病理医像と共に、胃癌についての専門的なお話を伺い、先生方の医療や医学教育に対する想い、深い知識と素晴らしい業績に大き

な感銘と刺激を与えて頂きました。

引き続き行われた懇親会では、関東でご活躍されている多くの先生方から優しく声をかけて頂き非常に嬉しかったと共に、臨床研修や専門分野の選択、キャリア形成等についてのお話を頂戴することができ、大変参考になりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を設けてくださった関東支部会の諸先輩方に厚く御礼を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。今後も是非参加させていただきたいです。

関東支部会

●医学科3年 播谷 美紀

この度は関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。大先輩である先生方にお会いする機会が普段少なく、その上関東にいらっしゃる先生方にお会いすることが全く無かったので、卒後のお話しや医療現場の現状やアドバイスをお聞きすることができました。緊張して最初は固まっていたのですが、先生方から気さくに話しかけて頂き、そして親身に話を聞いて下さり嬉しかったです。学生として日々の勉強や部活動等のモチベーションも頂くことができました。関東支部会に学生を呼んで頂き本当に感謝しております。



●医学科3年 松井太瑠日

「湖医会」関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。塩田学長をはじめ多くの先生方とお話ができ、非常に有意義な時間を過ごせました。

私は卒業後、関東での勤務を希望していますが、先生方とお話の中で関東近県の医療の現状や現場の様子をうかがうことができました。そのため、関東で勤務するという意識がより具体的なものになり、医師になることへのモチベーションが高まりました。

現在の医療は医師数が診療科ごと、地域ごとに偏在化し、医療サービスを利用する患者に不便を与えています。必ずしも出身地に勤務することにこだわらず、日本の医療全体に対して貢献するにはどうすべきか、という課題が新たに見つかりました。

今回の集まりで貴重なお話を聞かせてくださった先生方に感謝します。ありがとうございました。

●医学科3年 森 瞳子

以前から参加したいと願っておりましたが、気後れがしてなかなか足を踏み出せずにいました。今回、講演内容が既習範囲と関連していたこともあり、参加を決意いたしました。

先生方はとても温かく、また、貴重なお話を伺うことができ、楽しく充実した時間を過ごせました。

将来についての様々な選択肢をどう絞っていくべきか悩んでおりましたが、今回の支部会を通じて少し目の前が拓けてきたように感じます。

また参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました



支部会

「湖医会」 滋賀支部発足

会長 渡辺 一良 (医2期生)

滋賀支部会

昨年8月、「湖医会」に滋賀支部が発足しました。

「湖医会」では会の創立30周年(2011年)記念事業の一環として、支部の設立を目標のひとつに掲げ、各地に草の根発生的に支部会が設立されるように取り組んできました。すなわち、本学を卒業して地元に戻った先輩が中心となり、これを取り巻くように会員が集まり、地域の中で自然発生的に立ち上がるようにというものです。

その結果、歴史ある関東支部会に続いて鹿児島、大阪、奈良の各支部が設立されました。地元会員の懇親、情報交換、そして卒業生のUターン時の相談にのるなど、貴重な活動をしていただいております。

さて、地元滋賀県ではというと、母校おひざ元の所以か滋賀支部が必要だという機運は盛り上がりませんでした。



しかし、昨今の情勢に目をやりますと、全卒業生約4500名の1/3にあたる1,484名は滋賀県内にあって、しかも県内医療機関の重要なポストに多数従事するようになってきており、その傾向は今後ますます強まるはずであります。ならば県内にいる同窓生の縦横の連携を密にし、貴重な情報を得やすい環境を整えることは非常に有効かつ大切なはずで。

このような気運の中、昨春には学長選が行われて母校の執行部体制が一新されました。新執行部発足に伴い同窓会との協力・連携も期待されます。新しい学長や病院長の将来構想について聞いてみたいという声も多くありました。そのような流れで「湖医会」滋賀支部の設立を準備しようという声が大きくなってきました。

これを受け8月30日、草津ボストンプラザホテルにおいて、総勢50余名の参加のもと、滋賀支部の設立準備会

が開催されました。その場には昨春新たに就任された塩田学長、そして松末病院長をお招きして、今後の運営方針や構想を語っていただき、さらに会員との率直な意見交換なども行われました。

その後今回の集まりを機に滋賀支部を設立してはどうか、という発議が出され、出席者に諮ったところ満場一致で設立が決定された次第です。

自薦他薦などの結果、今後、中心となって動いていただくメンバーが以下のように決まりました。代表には前川 聡(内科学講座教授、医1期生)、役員には井上修平(東近江総合医療センター病院長、医3期生)、野々村和男(守山市民病院長、医4期生)、木築野百合(医院理事長、医5期生)、看護学科より山下 敬(大津赤十字病院看護師、看5期生)の各氏が選出されました。

今後滋賀支部会の活動方針やその内容について詰めていくことになっていますが、いずれの役員もみな超ご多忙、重責を担っておられ、一堂に会することすらままならないというのが実情であります。

滋賀県に在住、または勤務する「湖医会」会員は自動的に滋賀支部会員となります。会員の皆様から要望や意見をお寄せいただき、役員の皆さんを後押ししながら、新たに発足した滋賀支部会を育てていただけるようお願いする次第です。

滋賀医大卒業生の動向 (2014.7.1現在)

1. 全卒業生数

医 学 科	3,304
看護学科	1,168
計	4,472

2. 医学科

滋賀県内	1,155	(内訳)	本学	399
他県	1,841		本学以外	549
海外	27		開業	197
不明	253		その他	10
物故	28		計	1,155
計	3,304			

3. 看護学科

滋賀県内	329	(内訳)	本学	207
他県	380		本学以外	122
海外	2		計	329
不明	455			
物故	2			
計	1,168			

支部会



滋賀支部会



事務局から

2014年度「湖医会」総会 議事録

日時／平成26年10月25日(土) 15:00～16:10

場所／基礎実習棟B講義室

審議事項

- ① '13事業報告及び'13決算について
○原案（資料1-1、1-2）どおり承認された。
- ② '14事業計画及び'14予算について
○原案（資料2-1、2-2）どおり承認された。
- ③ 役員改選について
○会長については、立候補のあった渡辺一良氏（医2期）が全会一致で信任され選出された。
○副会長については、立候補のあった次の8名全員が全会一致で信任され選出された。
中島滋美（医2期）、永田 啓（医2期）、篤本尚慶（医2期）、相見良成（医5期）
金子 均（医7期）、茶野徳宏（医10期）、白石知子（看1期）、山下 敬（看5期）
○幹事、監査役については、幹事会から提案のあった名簿（資料3）のとおり承認された。
- ④ その他
○滋賀支部の設置について
滋賀県内に勤務又は在住する会員を構成員とする「滋賀支部」の設置が幹事会で承認された旨の報告があった。

※各資料は「湖医会」HPを参照

平成26年版

「湖医会」会員名簿 刊行!

(A4版に改訂)

名簿作成にあたり、多くの会員のみなさまから異動の情報を
お寄せいただきましたことに感謝申し上げます。

会員名簿は会費納入者にお送りします。

会員名簿ご希望の方は、「湖医会」事務局までお問い合わせください。

年会費について

(2014年度分から一部取り扱いが変更になりました。)

医学科卒業会員

会費の割引…自動引き落とし（口座振替・VISAカード）のすべての
利用者は、年会費6,000円が5,000円に割引となります。

会費の免除…40年（40回）分を納入したとき、あるいは、満65歳に達し
それまでの会費を完納しているとき（本人からの申し出に
よる）は、以後の会費は免除となります。

お知らせ

「湖医会」年会費の自動引き落とし

口座振替をご利用の方は10月12日、
一般VISAカードの方は10月15日となります。

なお、便利な口座引き落としのご利用を
ご希望の方は事務局までご連絡ください!!



お名前・住所・開業・勤務先・メールアドレス等を変更の場合は、
メールまたはファクスで事務局まですぐにご連絡ください。

表紙の写真：福利棟